

成果の説明書

(氏名) 石渡華奈	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 授業外での英語学習機会の提供</p> <p>1. Kana's Café 8年目</p> <p>「授業以外でも英語を学びたい・使いたい」という学生の希望により 2010 年度後期から研究室で週に一回 Kana's Cafe を開いている。参加も出席も義務ではないため、より自然でより自発的な学習の場として機能している。この Café はただ英語を喋るという場ではなく、英語学習相談を受けて適切な教材を紹介したり、個人のニーズに合わせた学習プログラムを作成したり、英語に関する質問に答えたり、また英語の化石化が起こらないように教材を決めて正確な英語で発話をするというトレーニングを行ったりしている。</p> <p>登録メンバーは1年生から4年生までさまざま、メンバーがファミリーのようになり、先輩から後輩が、後輩から先輩が良い刺激を受けている。</p> <p>2017 年度は、メンバーのうち1人が福岡で開催された全国英語暗唱コンテスト（応募者約 40 名）で本選（8 名）に進出、2 位入賞、また 3 人がチームで参加した全国英語プレゼンテーションコンテスト（グループの部応募者約 130 グループ）で本選（5 グループ）に進出、奨励賞を受賞した。その結果、このチームは学長表彰ならびに同窓会奨励賞の受賞という栄誉に輝いた。</p> <p>また、2018 年夏から 1 名がアイルランドに、1 名がドイツに交換留学に行くことが決まっている。</p> <p>2. 英語ルール</p> <p>本年度も、学内でも学外でも学生に会ったときは英語で話しかけ、授業中や研究室内で教員が英語を使っているときに学生は日本語を使ってはいけないというルールを徹底した。メール連絡も LINE のチャットも原則としてすべて英語で行う。年度の始まり、各学期の始まりにはほとんど英語で受け答えができずに日本語に頼ろうとする学生でも、年度の終わりには積極的に英語でコミュニケーションを取ろうという姿勢に変わっていることに、その効果が反映されている。</p> <p>3. 発音講座</p> <p>2016 年度後期から週に一回、英語の音を攻略するための「発音講座」を開いている。通常の授業ではなかなか扱えないさまざまな英語の音声現象を体系的に扱い、英語の音を習得するためのトレーニングを行った。5 限終了後から 2～2.5 時間のレッスンだが、毎回 10 名を越す（多いときは 20 名以上の）参加者があった。ESS 部員ではない学生の参加もあり、「発音にしっかり取り組んだらリスニング力が上がった」「TOEIC のスコアが急上昇した」「必修英語授業で褒められた」など好評であった。</p> <p>(2) 英語スピーチのコーチング</p> <p>ESS スピーチセクションの希望メンバーに対して本格的なコーチングを行った。その結果、1 名が計 5 つの全国大会に出場、1 名が 3 つの全国大会に出場（うち 1 大会で優勝）、1 名が 1 つの全国大会に出場した。</p> <p>全国に何千人という ESS 部員のなかで、予選を通過して全国大会の本選に出場できる者はごくわずか（各大会 8～10 名）であり、一大学の ESS から複数の部員が複数の全国大会に出場できたというのは輝かしい成績である。</p>	

2 その他の事項

3 次年度以降の計画・抱負

毎年必ず数名の学生から「なぜこの大学には石渡のゼミ（あるいは英語のゼミ）がないのか」と質問を受ける。本学では語学教員のゼミ担当が認められておらず、昨年度国際学科新設を機に英語教員にもゼミを担当させていただけるよう執行部に働きかけたが希望は叶わなかった。ゼミを望む学生たちのためにも、ゼミが開講できないとしても、その代替りの存在として **Kana's Café** の機能や発音講座などの課外活動を充実させていきたい。

また、**ESS** スピーチセクションのメンバーたちが全国区で競い続けられるよう、自己のコーチングスキルをさらに向上させて指導に当たるとともに、英語弁論大会においては全国の大学から応募のある予選を突破して本選に出場することがいかに難しいかをより多くの教職員に理解していただくよう工夫し、学生の努力と成果がより評価されるよう努めていきたい。